

ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i> Th.Wolf	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		バラ科
選定理由	県内では産地がごく限られる非常に稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。ただし、人為移入の可能性もある。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	明るい草地に稀な多年草。地下茎は肥厚し、堅い。茎は長さ20-40cm、直立-傾上、枝を打ち、密毛がある。葉は7-15小葉の羽状複葉、付属小葉片なし。小葉は倒披針形-狭長楕円形、羽状に浅裂、上面緑色、下面は白ビロード毛密生。托葉は楕円形-卵形。花は5数性、6-8月に散房花序に着き、径約1cm。萼片、副萼片は鋭頭で花弁とほぼ同長。花弁は黄色、広倒卵形。雄蕊20。雌蕊多数。	
生態的特徴	明るい草地に生える。河原に生えるものではない。	
分布状況	北海道、本州の向陽の草原、河原に稀。台湾、朝鮮、中国(?)。県内では木曾川中流域に非常に稀。	
減少要因	道路脇の草地管理の停滞に起因する日照不足からの生育不良。	
保全対策	道路脇の草地管理の促進による草地形成の抑制。	
特記事項	カワラサイコ <i>Potentilla chinensis</i> Ser.に似るが、小葉が少なく、幅広く、付属小葉片がない。人為移入の可能性もある。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 33. <i>Potentilla</i> L. N. Naruhashi	

文責:高野裕行